

Title	私の本棚
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学工学部
Publication year	2023
Jtitle	新版 窮理図解 No.39 (2023. 11) ,p.7- 7
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	慶應理工の計算固体力学と情報技術：これからのコンピュータ支援エンジニアリング (CAE : computer aided engineering) とは? 機械工学科 村松真由 (准教授)
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000039-0007

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

●『菊と刀』

(ベネディクト 著 角田安正 訳 光文社古典新訳文庫)

第二次世界大戦中の米国戦時情報局による日本研究が記されている名著。研究をしていると、世界の中での自分や日本人の立ち位置を嫌でも考えさせられる。日本人の本質は何かと考えていた時に大村亮先生が読んでおられた『古事記』とともに読んだ。自分や日本人を海外の人がどのように見ているか、客観的に考えるヒントをくれる。

●『ゴールは偶然の産物ではない』

FCバルセロナ流世界最強マネジメント』

(フェラン・ソリアーノ 著 グリーン裕美 訳 アチーブメント出版)

博士課程修了後、研究機関や他大学を転々としていた。その後、慶應義塾に戻って初めて自分の研究グループを持つことが決まったとき、スポーツチームの運営本をたくさん読んだ。これはそのうちの一冊。「ゴールは偶然の産物ではない」という言葉どおり、個人技、メンバー構成のみならず、クラブの金銭面、スポンサーシップ、ブランド、ありとあらゆることが1つのゴールにつながっていると主張している。

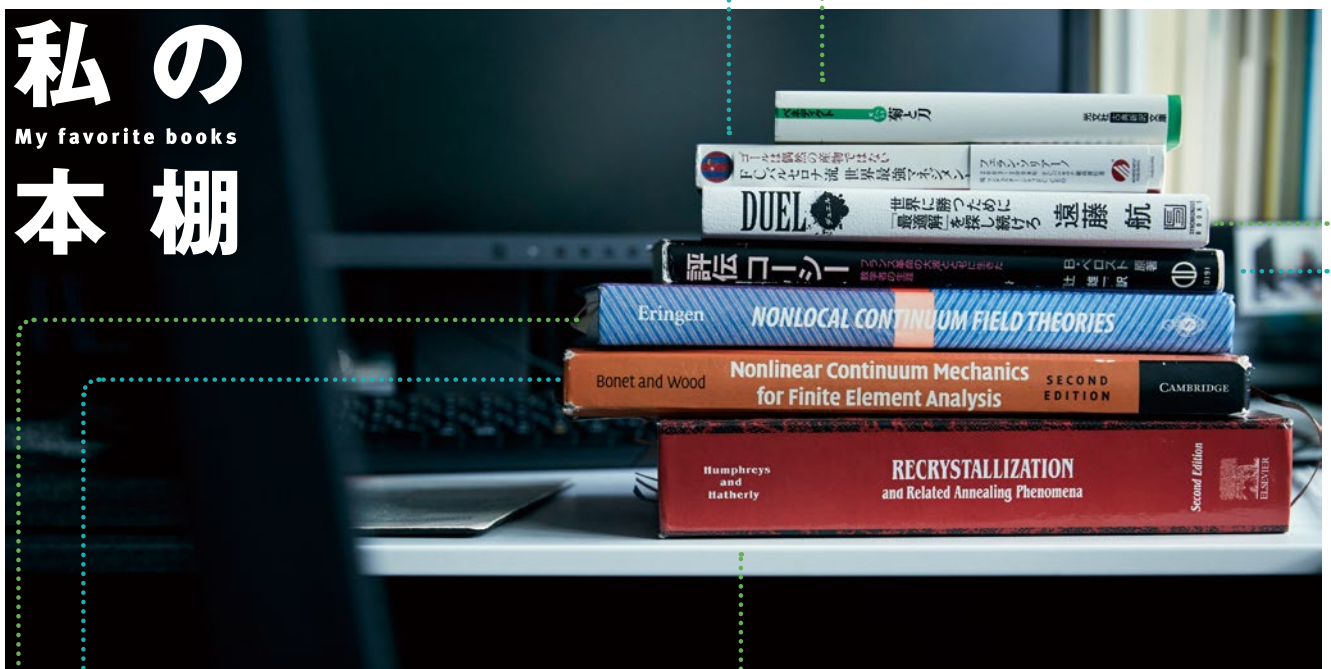
●『DUEL 世界に勝つために』

『最適解』を探し続けろ』

(遠藤航 著 日本ビジネスプレス)

Jリーグの湘南ベルマーレを応援している私が、昔からウオッチしていた遠藤航選手の著書。遠藤は、かつてのベルマーレの専監督により「特別目立つテクニクがあるわけではないし、背も高くないが、前を見て走れる子供で、そういう子はあまりいない」という絶妙なユース抜擢をされた。しかしながら、ベルマーレ、(浦和)レッズを経て、サッカー選手としては高齢とされる24歳で海外挑戦をはじめ、シントトロイデン、シュツットガルト、リバプールと、驚くようなキャリアを歩んでいる。遠藤が、何を大事にしながらこれまでサッカーを続けてきたのか、よくわかる。

私の My favorite books 本棚



●『Nonlinear Continuum Mechanics for Finite Element Analysis』

(Javier Bonetら著 Cambridge University Press)

日本の“計算固体力学”に携わる研究者は、誰もが読むであろうたいへん有名な教科書。連続体力学よりは固体力学に特化した記述になっている。先日、本書を執筆されたBonet先生にご挨拶した際、「本書を毎年自分の研究室の輪講に使わせてもらっています」とお伝えしたら、英語の原典を読んでいるということ喜んでくださった。(ちなみに本書の日本語翻訳本もあるが、それらもたいへん分かりやすい!)

●『Nonlocal Continuum Field Theories』

(A. Cemal Eringen 著 Springer-Verlag New York)

学位を取得した研究テーマである「一般化連続体力学」に関する教科書。指導教員の志澤一之教授が、先生オリジナルの資料を使って、マンツーマンでマイクロポーラー理論を伝授してくださったときは、博士進学を選択をしたことをとても幸運に感じた。基礎的なことはほぼその時に教わったが、原典に戻りたいときはEringen先生の本を開く。

●『Recrystallization and Related Annealing Phenomena』

(F.J.Humphreysら著 Elsevier)

金属の相変態の実験によって得られる知見からそれらに対する数値シミュレーションまで、幅広くカバーした教科書。現在、研究室では様々な構造材料(金属、高分子、セラミックス)の研究を行っているが、私が最初に研究を始めたのは金属だった。また、博士課程の学生のときに、初めて自分の研究費を使って購入した教科書で、当時は洋書の価格の高さに驚いた。(2023年9月現在の価格:3万2846円)

●『評伝コーシー』

『フランス革命の大波とともに生きた数学者の生涯』

(ブリュノ・ペロスト 著 辻雄一 訳 森北出版)

Augustin-Louis Cauchyの伝記。固体力学では、コーシー(Cauchy)といえば「コーシー応力」であるが、彼の名前を冠した数学理論は多数ある。コーシーには、投稿されたガロアの論文を放置したという有名なエピソードがあるが、本書を読むと気難しい人だったということがわかる。